

出来る進行役がもつ2つの心得

出来る進行役がもつ2つの心得とは

- ①中立的な態度を保つ
- ②堂々とした姿勢を保つ

①中立的な態度を保つ

議論に対して先入観を持たず、進行役が支持する意見に誘導することを避ける。

特に、意思決定権を持っている進行役が意図的に意見を誘導すると参加者は消極的な態度になり、会議を行う意味がなくなり、納得度が低くなる。

→会議では参加者が主体的に当事者意識を持って行動できるように促し、最終的な合意に導く必要がある。

②堂々とした姿勢を保つ

会議の状況に関わらず、
萎縮せずに堂々とした姿勢を保つ。

<萎縮しやすいパターン>

1. 参加者に萎縮する

→自分より知識や経験のある参加者に張り合おうとしてしまうと萎縮しやすい。
こういった場合、張り合うのではなく、知識や経験を引き出して、進行役として良い意見を言ってもらう役割に徹すること

2. 状況に萎縮してしまう

→意見が衝突して、参加者同士が感情的に対立してしまい、議題と全く関係ない話をしだしてしまう状況に対して、萎縮してしまうこと。
こういったイレギュラーな状況に対して進行役が萎縮してしまうと、収集がつかなくなるため上手に対応し、状況をコントロールすること。

堂々とした姿勢のノンバーバル

進行役が委縮せずに
対応してコントロールする必要がある。

→ 自信のあるような態度、姿勢を保つ。

<ノンバーバルのポイント>

- ・微笑む
- ・参加者と目を合わせる
- ・声を大きく張る
- ・ゆっくり話す

参加者は振る舞いから自信があるかないかを判断するため 自信のありそうな振る舞いを身に付ける。

次回の学習テーマ

会議の生産性を高める進行役の役割